

【報道関係各位】

～全国 34 万人の声を届ける～
**東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）にともなう
 生活支援に関するチャリティー・アンケート**

- **地震発生以降、特に不足しているものは「ガソリン」「灯油」**
- **災害に関するニュースや生活情報の入手は「テレビ」「ラジオ」「パソコン」「ツイッターなどの SNS」は 16%**
- **被災地に対して協力していること・協力したいことは「義援金・災害募金」「買い占め・買いだめを控える」「節電」**

2011 年 4 月 13 日
 株式会社マクロミル

インターネット調査会社の株式会社マクロミル（本社：東京都港区、代表：杉本哲哉）は、全国のマクロミルモニタを対象に、「東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）にともなう生活支援に関するアンケート」を実施いたしました。

調査手法はインターネットリサーチ。調査期間は 2011 年 3 月 16 日（水）～3 月 22 日（火）で、有効回答数は 344,142 名となりました。なお、本レポートでは 3 月 17 日に発表いたしました速報値を含め、まとめております。

また、本調査はマクロミルモニタに対して回答謝礼にあたる「20 ポイント（20 円相当）」を寄付することを呼びかけ実施したもので、回答者数×一人当たり 20 ポイント(20 円相当)分を義援金として、マクロミルから日本赤十字等の団体へ寄付いたします。

被災者の方々、並びにご家族・ご関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

【調査結果概要】

【1】 地震発生以降、特に不足しているものは「ガソリン」「灯油」

今回の震災をうけ、現在も日常生活が困難な地域に在住している人に対し、地震発生以降に困っていること・不安に思っていることを複数回答で質問したところ、「ガソリン・灯油が入手しにくい」が 90%、「食料が入手しにくい」82%が上位に挙がりました。（p2）

身の周りで不足していて困っている商品は「乗用車のガソリン」が 83%。これに「食料品」70%、「灯油」60%、「飲料水」46%と続きます。日用品の不足も深刻ですが、生活において緊急性が高いものは、ガソリン・灯油などの燃料とみることができます。特に福島以北の東北地方でその傾向が顕著です。（p3）

【2】 災害に関するニュースや生活情報の入手は「テレビ」「ラジオ」「パソコン」「ツイッターなどの SNS」は 16%

災害に関するニュースや生活情報の入手方法について尋ねたところ、「テレビ」87%、「ラジオ」64%、「パソコン」によるニュースサイト・関連 HP」55%の順となっており、「インターネット」と同様に「ラジオ」がよく活用されていることが分かりました。また、「ツイッターなどの SNS」と回答した人は 16%でした。（p4）

地震発生以降の親族・知人との安否確認の方法は、「携帯電話のメール」76%、「携帯電話の通話」70%、「固定電話」38%の順となっており、携帯電話による通信比率が高くなっています。一方、約 1 割の人が「通信会社などが提供する伝言サービス」を利用して安否確認を行いました。（p5）

【3】 被災地に対して協力していること・協力したいことは「義援金・災害募金」「買い占め・買いだめを控える」「節電」

震災を受けなかった地域に在住する人に対し、あなた自身ができることがあれば協力したいかとの質問に対しては 69%が「ぜひ協力したい」と回答。「協力してもよい」30%と合わせると、99%もの人が協力態度を示しており、全国を通じて高い支援意向がうかがえます。また現在協力していること、したいことでは「義援金・災害募金への協力」が 83%にのぼっています。（p6）

「東北地方太平洋沖地震にともなう生活支援に関するチャリティー・アンケート」

【調査結果詳細】

■ 調査概要

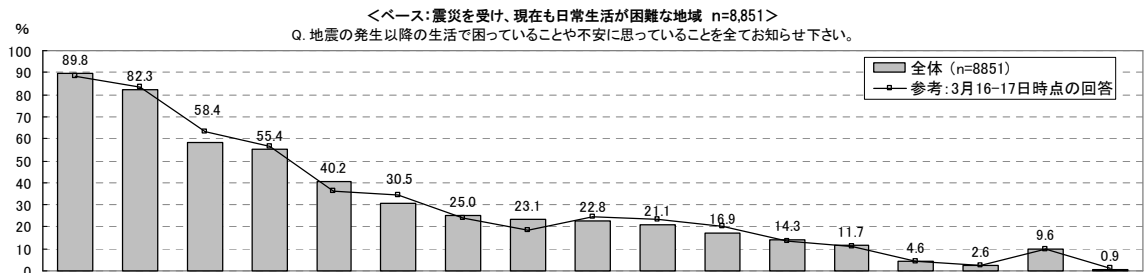
調査方法:	インターネットリサーチ ※ただし、地震の影響によりインターネット接続が困難な方もいらっしゃるため、アンケートに回答できる環境にある方だけの結果となります。
調査地域:	全国
調査対象:	マクロミルモニタ会員
有効回答数:	344,142s
調査日時:	2011年3月16日(水)～3月22日(火)
調査機関:	株式会社マクロミル

■ 震災の影響が著しい地域では物資の不足に困窮

今回の震災をうけ、現在も日常生活が困難な地域に在住している人は、全回答者 344,142 名のうち 8,851 名でした。被災した方に地震発生以降に困っていること・不安に思っていることを複数回答で質問したところ、「ガソリン・灯油が入手しにくい」が 90%で最多、次いで「食料が入手しにくい」82%となりました。続いて「水道が断水している・安定していない」が 58%、「トイレトーパーなどの日用品が入手しにくい」が 55%と半数を超えています。

参考として、速報値(3月16～17日の回答)と調査期間全体(3月16～22日の回答)を比較すると、「水道が断水している・安定していない(63%)」は5ポイント減少しています。一方、「ガス・電気の供給が止まっている・安定していない(36%)」「治安や犯罪上の不安(18%)」と4～5ポイント上昇しており、時が経つにつれ、困っていることや不安に思っていることが少しずつ変化しているようです。(図1)

【図1】地震発生以降の生活で困っていること、不安に思っていること



	ガソリン・灯油が入手しにくい	食料が入手しにくい	水道が断水している・安定していない	トイレトーパーなどの日用品が入手しにくい	ガス・電気の供給が止まっている・安定していない	トイレが利用できない・不足している	医療・保健サービスが利用できない	治安や犯罪上の不安	安全な地域への移動手段がない	同一県内の親族・知人に連絡が取りづらい	他県の親族・知人に連絡が取りづらい	暖房器具・防寒具などが不足している	現金が調達できない	テレビ・ラジオの情報が入手しにくい	プライバシーが確保できない	その他	特になし
全体 (n=8851)	89.8	82.3	58.4	55.4	40.2	30.5	25.0	23.1	22.8	21.1	16.9	14.3	11.7	4.6	2.6	9.6	0.9
参考: 3月16～17日の回答 (n=3140)	88.3	83.7	63.1	56.4	35.9	34.1	24.0	18.4	24.5	23.6	20.4	13.3	10.8	4.6	2.3	9.9	1.0
青森県 (n=191)	98.4	79.1	3.7	50.8	14.1	2.1	13.1	21.5	9.9	14.7	28.3	12.6	5.2	4.7	1.0	6.3	0.0
岩手県 (n=273)	98.5	89.4	33.0	56.4	32.2	8.4	27.5	19.8	17.6	40.7	31.1	20.5	11.0	6.2	0.7	7.0	0.0
宮城県 (n=3609)	95.4	92.5	55.8	63.9	69.9	30.9	34.4	34.3	27.2	34.4	20.0	20.9	15.6	6.2	3.1	7.6	0.1
福島県 (n=1261)	96.7	87.5	71.1	57.2	9.4	37.1	33.7	19.7	42.7	17.0	18.2	13.3	14.8	2.4	2.3	19.5	0.3
秋田県 (n=36)	100.0	88.9	13.9	66.7	13.9	5.6	8.3	8.3	5.6	8.3	11.1	13.9	8.3	2.8	5.6	0.0	0.0
山形県 (n=63)	95.2	85.7	6.3	66.7	17.5	4.8	17.5	14.3	11.1	9.5	30.2	12.7	3.2	4.8	1.6	4.8	1.6
茨城県 (n=1618)	94.7	77.1	83.0	42.5	11.0	40.2	17.6	16.6	15.9	9.5	12.8	7.7	7.5	3.7	1.4	8.0	0.0
千葉県 (n=742)	64.2	57.3	75.9	41.8	25.9	41.8	5.8	8.1	3.2	3.6	7.3	2.8	3.0	1.2	1.2	8.0	1.2
その他 (n=1058)	68.2	65.2	22.9	52.7	39.8	11.4	10.0	11.6	13.5	7.8	11.4	10.1	9.1	5.3	4.3	10.0	5.5

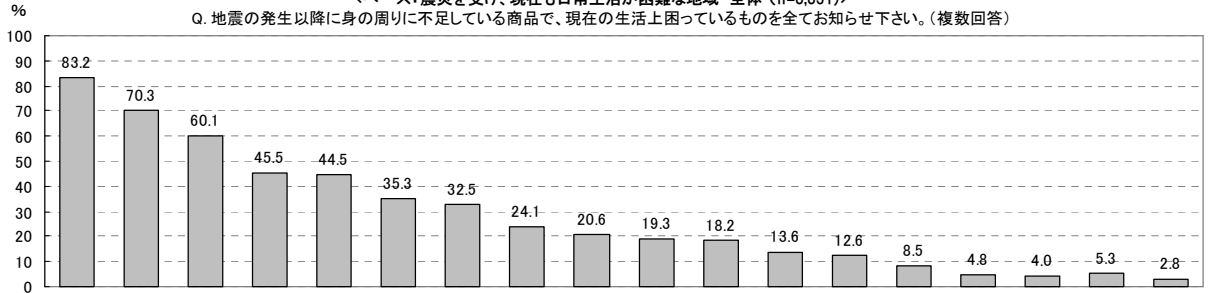
■ 地震発生以降、特に不足しているものは「ガソリン」「灯油」

身の周りで不足していて困っている商品は「乗用車のガソリン」83%がトップ。「食料品」70%、「灯油」60%、「飲料水」46%と続きます。日用品の不足にも不自由していますが、生活必要上の緊急性が高いものは、ガソリン・灯油などの燃料とみることができます。また、不足している商品は地域によってばらつきがあるようです。(図2)

【図2】身の周りに不足している商品で現在の生活上困っているもの

＜ベース：震災を受け、現在も日常生活が困難な地域 全体 (n=8,851)＞

Q. 地震の発生以降に身の周りに不足している商品で、現在の生活上困っているものを全てお知らせ下さい。(複数回答)



	乗用車のガソリン	食料品	灯油	飲料水	電池	パー・パレット・ペーパー	トイレ・ティッシュ	ガスコンロ・ガスボンベ	医薬品・救急用品	懐中電灯	紙おむつ・生理用品	防災用品	マスク・防塵用品	下着	その他衣類	タオル	毛布	その他	特になし
全体 (n=8851)	83.2	70.3	60.1	45.5	44.5	35.3	32.5	24.1	20.6	19.3	18.2	13.6	12.6	8.5	4.8	4.0	5.3	2.8	
青森県 (n=191)	90.1	66.5	79.1	9.4	59.7	29.8	25.7	11.5	29.8	16.8	23.6	4.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	4.2	1.0
岩手県 (n=273)	94.5	74.7	86.1	20.1	56.4	32.6	37.0	25.3	22.7	24.5	20.5	10.6	8.1	6.6	1.8	2.9	4.0	0.0	
宮城県 (n=3609)	88.9	83.6	73.8	44.4	47.4	39.3	53.9	32.5	17.4	23.0	19.5	15.5	17.6	11.4	6.4	5.3	5.7	0.5	
福島県 (n=1261)	92.6	75.1	71.5	57.7	34.9	38.9	17.5	31.2	17.0	22.0	16.9	19.5	15.3	10.7	5.5	4.1	5.4	1.5	
秋田県 (n=36)	86.1	66.7	83.3	11.1	61.1	50.0	25.0	13.9	38.9	41.7	27.8	11.1	2.8	2.8	2.8	2.8	5.6	0.0	
山形県 (n=63)	92.1	68.3	76.2	15.9	52.4	44.4	38.1	20.6	30.2	25.4	25.4	6.3	4.8	1.6	1.6	1.6	3.2	1.6	
茨城県 (n=1618)	90.6	60.0	51.1	57.1	42.3	25.6	14.5	17.5	20.1	13.8	16.7	10.0	8.8	5.9	3.0	1.7	5.6	1.5	
千葉県 (n=742)	54.6	44.1	18.5	48.2	41.2	28.4	13.9	4.6	26.8	11.1	14.0	8.5	4.7	2.8	2.3	1.6	5.8	10.6	
その他 (n=1058)	56.7	53.4	31.0	31.4	44.8	38.0	18.0	13.7	28.4	15.3	17.8	12.1	7.6	6.3	5.2	5.4	4.1	9.6	

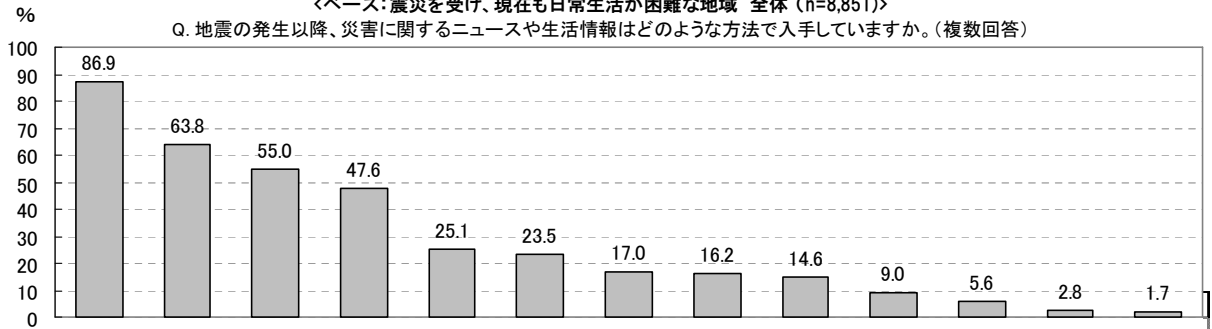
■ 災害に関するニュースや生活情報の入手は「テレビ」「ラジオ」「パソコン」。
「ツイッターなどのSNS」16%

災害に関するニュースや生活情報の入手方法について尋ねたところ、「テレビ」87%、「ラジオ」64%、「パソコンによるニュースサイト・関連HP」55%の順となっており、「インターネット」と同様に「ラジオ」もよく活用されていることが分かりました。また、「ツイッターなどのSNS」と回答した人は16%でした。(図3)

【図3】災害に関するニュースや生活情報の入手方法

＜ベース：震災を受け、現在も日常生活が困難な地域 全体 (n=8,851)＞

Q. 地震の発生以降、災害に関するニュースや生活情報はどのような方法で入手していますか。(複数回答)



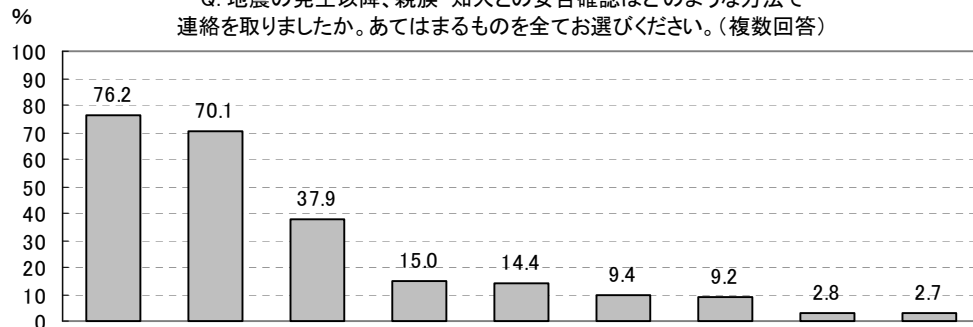
	テレビ	ラジオ	関連HP	パソコンによる	新聞	直接家族・知人からの	携帯サイト・関連HP	自治体広報や防災	SNS	携帯のメール	パソコンのメール	スマートフォンやコンピ	動画共有サイト	その他
全体 (n=8851)	86.9	63.8	55.0	47.6	25.1	23.5	17.0	16.2	14.6	9.0	5.6	2.8	1.7	
青森県 (n=191)	93.2	65.4	54.5	48.2	21.5	22.5	7.3	9.4	13.6	8.4	3.7	1.0	1.0	
岩手県 (n=273)	88.3	76.9	51.3	50.9	25.6	22.0	14.7	13.2	15.4	8.8	5.1	4.0	3.3	
宮城県 (n=3609)	80.7	76.9	47.0	55.9	29.5	22.4	12.6	14.8	14.2	8.2	7.3	2.6	2.4	
福島県 (n=1261)	96.7	55.4	65.6	35.8	24.2	24.8	11.3	19.4	12.8	8.9	4.2	2.8	1.2	
秋田県 (n=36)	88.9	72.2	69.4	66.7	19.4	27.8	16.7	13.9	8.3	13.9	5.6	2.8	0.0	
山形県 (n=63)	90.5	69.8	47.6	54.0	17.5	12.7	11.1	12.7	9.5	7.9	4.8	3.2	0.0	
茨城県 (n=1618)	87.5	67.0	55.5	46.3	25.6	23.5	30.2	17.1	13.7	7.1	4.1	2.6	1.5	
千葉県 (n=742)	94.6	32.5	68.3	41.9	20.2	26.5	30.7	19.4	23.3	13.5	3.8	3.4	0.8	
その他 (n=1058)	88.1	42.0	60.3	37.1	15.1	24.2	11.3	16.0	13.9	11.8	5.8	3.4	0.4	

■ 親族・知人との安否確認の方法は固定電話・公衆電話以上に「携帯電話」を活用

地震発生以降の親族・知人との安否確認の方法について尋ねたところ、「携帯電話のメール」76%で最多、次いで「携帯電話の通話」70%と携帯電話を活用している人は7割超となりました。「固定電話」は38%と約4割でした。また、「通信会社などが提供する伝言サービス」という回答は9%と約1割が伝言サービスを利用して安否確認を行っていました。(図4)

【図4】親族・知人との安否確認の方法

〈ベース：震災を受け、現在も日常生活が困難な地域 全体 (n=8,851)〉
Q. 地震の発生以降、親族・知人との安否確認はどのような方法で連絡を取りましたか。あてはまるものを全てお選びください。(複数回答)



	携帯電話のメール	携帯電話の通話	固定電話の通話	公衆電話の通話	パソコンのメール	SNS	提供する伝言サービス	スカイプ	その他
全体 (n=8851)	76.2	70.1	37.9	15.0	14.4	9.4	9.2	2.8	2.7
青森県 (n=191)	72.3	63.9	44.0	12.6	14.1	5.2	9.9	1.6	1.6
岩手県 (n=273)	73.6	63.7	32.2	10.3	8.8	9.9	13.2	2.6	6.2
宮城県 (n=3609)	79.9	70.9	28.3	16.1	11.4	9.1	11.6	1.8	4.1
福島県 (n=1261)	76.0	67.8	55.0	16.9	20.1	9.0	8.3	3.2	1.8
秋田県 (n=36)	80.6	72.2	36.1	2.8	19.4	5.6	11.1	5.6	0.0
山形県 (n=63)	77.8	65.1	28.6	12.7	14.3	7.9	4.8	3.2	1.6
茨城県 (n=1618)	75.1	70.5	42.9	16.7	11.7	8.2	6.4	2.6	1.5
千葉県 (n=742)	75.2	74.1	47.2	10.2	22.0	12.3	7.3	3.8	0.8
その他 (n=1058)	67.9	69.4	37.0	12.4	17.9	11.6	6.5	5.3	1.2

■ 被災地への協力していること・協力したいことは

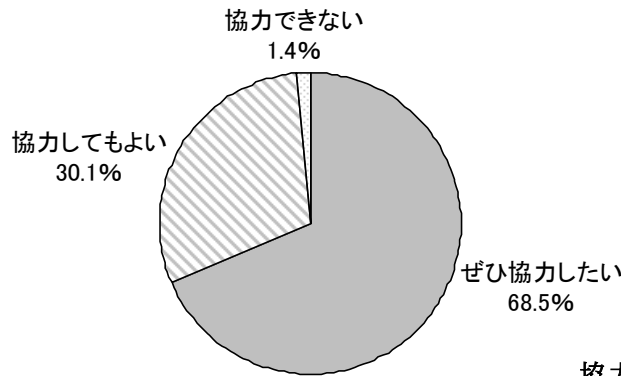
「義援金・災害募金」「買い占め・買いだめを控える」「節電」

「あなた自身ができることがあれば協力をしたいかと思いませんか」という質問に対しては、震災による被害を受けなかった地域にお住まいの方 223,085 名のうち 69%が「ぜひ協力したい」と回答。「協力してもよい」30%と合わせると、99%の人が協力態度を示しており、全国を通じて高い支援意向がうかがえます。(図 5)

また、被災地に対して現在協力していること・したいことを尋ねると「義援金・災害募金への協力」が 83%、「不必要な買い占め・買いだめを控えること」が 74%、「節電への協力」が 73%という回答があがっています。(図 6)

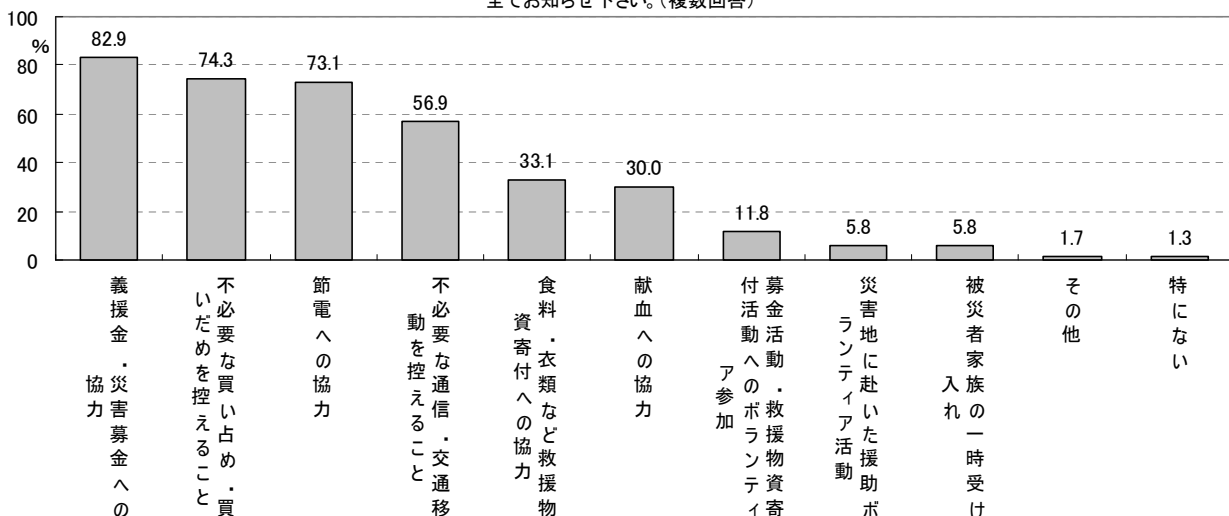
【図5】被災地にお住まいの方への協力意向

〈ベース：震災は受けなかった地域 (n=223085)〉
Q. 被災地にお住まいの方のためにあなた自身ができることがあれば協力をしたいと思いますか。(単一回答)



【図6】被災地にお住まいの方のために現在協力していること・今後したいこと

〈ベース：震災は受けなかった地域 (n=223085)〉
Q. 被災地にお住まいの方のためにあなたが現在協力していること、また今後協力したいと考えているものを全てお知らせ下さい。(複数回答)



■ 被災地域の方から全国の方へのメッセージ

全国の方に対してのメッセージを募ったところ、多くのコメントが寄せられました。一部抜粋してご紹介します。

【FA 抜粋】

内容	性別	年齢	居住地	職業
応援メッセージや支援活動、節電協力への感謝				
岩手からです。全国のみなさん、たくさんのご心配とご厚意を本当に本当にありがとうございます。知るたびに涙がでます。海外からもたくさんのお助けや援助の手が差し伸べられ、とてもありがたい気持ちでいっぱいです。ただ、ガソリンがないばかりに内陸部でも(特に山のほうに住んでいる人たちが)飢えはじめています。水も出ない地域があります。風邪をひいた人も増えてきました。ガソリンスタンドからは給油は「救助専用」と言われ、3月12日からほとんど断られています。(バスもタクシーもガソリンがないので動いていません。)	女性	45	岩手県	専業主婦
全国から多くのご支援を頂き、本当にありがとうございます。現在どこにもガソリンの在庫が無く、物資の輸送、被災者の救援にも支障が出ています。交通手段のほぼ全てを車に頼るしかない地域ですので、せめて命に関わるような場所には早く行き渡ればいいのですが…。	男性	34	岩手県	会社員(事務系)
自分は車に乗ったまま津波で流され、車が横転した際になんとか脱出して一命を取り留めました。今、テレビやネットで状況が分かってきましたが、自分が体験した状況は他に被災された方々を比べたらまだ良い方だったと痛感しました。ずぶ濡れの自分に温かい服をくれた多賀城ロジュマンマンションの管理人様、本当にありがとうございます。日本は必ず復活する！それを信じて国民全員で助け合ってください。	男性	36	宮城県	会社員(事務系)
皆様に応援頂きありがとうございます。やっと電気が点き様々な情報を見ることが出来ました。全国の方が、被災者のために献血をしてくださっているとのこと。感動いたしました。また、暖かいメッセージをたくさん見ました。泣きました。毎日寒くて辛いけど、世界中の方に応援していただいていることがとってもうれしいです。でも、どうかガソリン、灯油、食料品を下さい。お願いいたします。	女性	53	宮城県	専業主婦
ガソリン・灯油などの燃料不足が深刻				
ガソリン、灯油、重油が非常に不足しています。これらが不足しているため、市民生活や物資・人の輸送(運送業者や、市営バス等)が運行できない状態です。これらの供給をよろしくお願いします。	男性	42	青森県	会社員(技術系)
ガソリン不足が深刻です。停電になると外部との連絡が全く取れません。カセットボンベや電池、懐中電灯、毛布ホッカイロ等、又すぐ食べられるものは常備してください。水辺の人とはとにかく高いところに避難。周りの協力が重要です。	男性	20	宮城県	学生
原発から逃れたくても、ガソリンがなくて移動手段がなく逃げられない人がたくさんいます。どうか、陸送でも海上輸送でも構わないので、逃げる手段を提供してください。お願いします。	女性	39	福島県	専業主婦
現地の生活状況				
避難所生活をしている人たちの様子を実際に見てきた人の話ではその場所で支給されたおにぎりはおせんべい状態だったとか。水、食糧絶対的に不足！身内の死亡確認をしたくてもガソリンがなく被災地に行けない状態です。	女性	55	岩手県	その他
自治体からの情報が全く入りません。停電している間はテレビ、ラジオ等からの情報も入りません。町内会の炊き出しには助かりましたが数日で打ち切りされ、会社からの支援品で生きています。市・区からの支援物資は一度も手にすることはありませんでした。ライフラインの復旧に関する情報も一切ありませんでした。個人で生きていくにはとても過酷な状況です。私はまだ勤務する会社からの支援がありました。会社へ所属してない方は生きていく術が無いと思います。自治体の素早い対応を希望します。	女性	48	宮城県	会社員(事務系)
配水が1日1人2リットル。取りに行ける人だけなので、体の不自由な人や高齢者など、本当に助けが必要な人に助けが行き渡ってない気がします。	女性	36	茨城県	その他

その他				
<p>壊れかけてるキーボードで、白い息を吐きながら、この文章を打っています。外は、雪が積もっています。福島原発の電気は、福島で使っていたのでは有りません。だからどうしろとは思いません。怒ってもいません。仕方無い事なんだと思います。でも、逃げたくても、新幹線も電車も動いていません。高速バスも乗れる人数に限りがあります。ガソリンも有りません。道路も壊れています。移動するには、放射能が検出されている外をひたすら歩くか、自転車に乗る以外有りません。マスクも、有りません。遠くまではいけません。ここにいるしか有りません。東京の方が、『ここも危ないじゃない！逃げよう！』と言っているのを聞くと、気持ちは分かります。でも、切なくなります。すごい地震でせっかく助かったのに、東京でも危ないんだったら、ここにいる生きてる人達は、死ぬしかないんじゃない？って。その事を、分かって欲しいなと、思います。みんな怖さと戦いながら、一生懸命に、生きてます。昨日、救援物資を運ぶボランティアをして来ました。色んな所にいる、色んな人の温かい気持ちが伝わって来て、泣きそうになりました。ありがとう。</p>	女性	30	福島県	会社員(その他)
<p>仙台市に在住しています。宮城県の海沿い地域の壊滅状態は、筆舌に尽くせない悲惨なものです。当地域は、昨日やっと電気がつき、明るい夜を過ごせるようになりました。避難所にいる方々は、大変不自由な生活を余儀なくされています。特に、昨日からの真冬並みの寒波です。とにかく暖房が欲しいと言っていました。配給食も大変少ないようです。赤ちゃんを抱えた、ある若いお母さんが、ミルクがないので、自分の配給食を小さく砕き、赤ちゃんに食べさせているそうで、お母さんは5日間食事をとっていないと言っていました。救助に携わっている方も、必死で不眠不休の活動をしてもらっています。本当に有難いことです。頑張っ、少しでも多くの方を救助して欲しいと思っています。何千人という行方不明の方がいるとのこと。小学生の幼い女の子が、母親の帰りを待って、1人被災地を眺めている映像は、耐え難いものがありました。悲しいです。1日も早い復興に向け、皆で助け合い頑張りましょう！最後に、皆さまの被災地に向けた温かい義援金等のご支援に心より感謝し、失礼致します。乱筆乱文お許しください。</p>	男性	62	宮城県	会社員(その他)

■ 全国の方から被災地域の方へのメッセージ

被災地域の方に対してのメッセージを募ったところ、多くのコメントが寄せられました。一部抜粋してご紹介いたします。

【FA 抜粋】

内容	性別	年齢	居住地	職業
「頑張れ」なんて言いません。今を生きることを必死なあなた達に、そんな軽々しい言葉はかけられません。生きるため、少しでも希望を見つけられるよう…微力ながらも、私たちにもお手伝いをさせてください。私は社協に勤めています。地域のみなさまからの、様々な声が聞こえてきます。遠く離れた地から、みなさんを案じている人がたくさんいます。義援金も集まっています、物資の提供への問い合わせもあります。こういうときこそ、助け合い、協働！ 少しずついいから、一緒に前を向いて歩いていきましょう。	女性	24	広島県	会社員(事務系)
15年前に阪神・淡路大震災で被災しましたが、今回はその時の1000倍のエネルギー、そして予想を遥かに超える津波と原発施設の爆発…、本当に胸が締め付けられます。すべての方に、それぞれの大切な方がいて、それぞれの思い出やエピソードがある中で、そのいくつかだけでもを新聞・メディアで見聞きするだけで、涙が止まりません。「和」。仲間、絆、連携、助け合い、支え合い。そしてなごやかさ。この言葉の持つ、日本人の根底に流れるその力に改めて気づき、今こそひとつになって乗り切りたい。涙し、悔やみ、力なく佇んでも、少しづつ笑いがこぼれるように。ひとりじゃない。ひとつなんだ。僕も、その力になりたいんです。	男性	38	大阪府	会社員(事務系)
うちの主人は阪神大震災の時、2番目に被害がひどかった兵庫区でずっと消火活動および救助活動をしていました。テレビで被災地を見て、あの時以上かもなとつぶやいていました。神戸の街は16年経ち、ほとんど震災の爪痕は残っていません。復興しています。必ず復興できます。希望を捨てずに希望を持って下さい。	女性	40	兵庫県	自営業
必ず日本は復興できます。自助・共助で支援隊が助けてくれます。希望を持って明日へ向かいましょう。気分が病んだときは外へ出て深呼吸や青空を見て落ち着いてください。	男性	44	東京都	その他
16年前に阪神淡路大震災を経験した者です。幸いにも私は住まいが壊れることはありませんでしたが断水は避けられませんでした。しかし給水時に面識のない方とお話をしたり挨拶をするだけで、不安な心を少し落ち着かせることができました。大変厳しい状態でお苦しいかと思いますが、どうぞ声をかけあい、励まし合って乗り越えてください。私も自分にできる事をやって、少しでも被災者の方がたの力になれるよう、努力します。一日も早く、元の穏やかな暮らしに戻れます様、無事でいられますように。	女性	44	大阪府	パート・アルバイト
60年以前に福井地震の経験があります。その時受けた支援で今生きています、亡くなられた方を悼み、避難された方には望みを捨てず頑張っていたきたいと思います。	男性	76	石川県	その他
日本国民が、世界中が被災した人を応援したいと思っています。今は過酷な現状かもしれませんが、一緒に頑張っ乗り越えていきましょう。	女性	34	石川県	専業主婦
連日テレビで伝えられるニュースに涙し、胃が痛むような思いで見えています。救援が必要な方々に必要なものが迅速に届き、行き渡ることを心から祈っております。自分ができる支援をこれからもしていきたいと思っています。日本でも、世界中から支援の声があげられ、活動がすでに始まっています。被災されている方々は情報もなかなか入らず、大変なことと思いますが、世界中が支援しようと動いていますから、どうか待っていて下さい。	女性	45	兵庫県	専業主婦
毎日大変なご苦労なさっていると思いますが、日本中・世界中が皆さんを案じ祈っています。ニュースで見ましたが、貧しいといわれる国々も支援を申し出て下さっているとのことです。国内でも、色んな地域で支援の輪が広がっています。皆を信じて、どうか希望を捨てずに心を強く持ってください。	女性	34	福岡県	専業主婦
頑張っして下さいと言われても、どう頑張っいいのかわからない状況だと思えますが、心身共にだいになっして下さい。孤独ではありません。日本中で見守っています。海外からの支援もあります。だから、どうか、どうか心折れないで、希望を持って下さい。	女性	47	大阪府	専業主婦

【 株式会社マクロミル 会社概要 】

株式会社マクロミルは、さまざまな企業の商品やサービス等に対する消費者の声を、インターネットを活用して瞬時に集めるインターネット市場調査会社です。

国内 100 万人を超えるマクロミルモニタを調査対象として迅速なネットリサーチを行う「QuickMill」のほか、携帯電話を活用したモバイルリサーチ「MobileMill」、世界各国の消費者を対象にした海外市場調査「GlobalMill」など様々なネットリサーチサービスを展開しています。

社名 ■株式会社マクロミル
 本社 ■東京都港区港南 2-16-1 品川イーストワンタワー11F 〒108-0075
 URL ■www.macromill.com
 設立 ■2000年1月31日
 資本金 ■15億9,785万円 ※2010年6月1日現在
 上場取引所 ■東証一部（証券コード：3730）
 代表者 ■代表取締役会長兼社長 杉本哲哉
 従業員数 ■528名 ※2011年3月末現在
 事業内容 ■インターネットを活用した市場調査（ネットリサーチ）

本件に関するお問い合わせ先

株式会社マクロミル 広報担当：大野・横田
 東京都港区港南 2-16-1 品川イーストワンタワー11F 〒108-0075
 TEL:03-6716-0707 FAX:03-6716-0701 E-mail:press@macromill.com

《 引用・転載時のクレジット表記のお願い 》

本リリースの引用・転載の際は、必ずクレジットを明記していただきますようお願い申し上げます。調査結果のグラフ・表をご利用の場合は、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。

<例> 「インターネット調査会社のマクロミルが実施した調査結果によると・・・」

